

会報
峠
とうげ

河井継之助記念館
友の会会報
第34号
2023.11

〈編集・発行〉
河井継之助記念館
新潟県長岡市長町1丁目甲1675-1
〒940-0053
Tel.0258-30-1525
Fax.0258-30-1526
頒布価：50円（送料別）

〈編集人〉
荒木法子 恩田富太
白石恒夫 中野武夫
友の会事務局
〈構成・印刷〉
高速印刷株式会社

不思議なご縁「稲川さんと中田さん」

友の会会計監査 高橋 讓



市役所に長く勤めると、誰もが岡の歴史と向き合う場面に出会うことになるようです。

私の場合は「米百俵財団」の仕事で『米百俵 その先の未来へ』とい

う本の発行に関わった事が始まりでした。当時、河井継之助記念館館長であった稲川明雄さんや阪之上小学

校教頭で「米百俵コーナー」「伝統館」の整備に関わった中田仁司さん

には編集委員として大変お世話になりました。今思えば河井継之助記念館館長と現館長ということになり不思議な縁を感じます。

その本の巻頭で、今は泉下の人である半藤一利さんと松本健一さんの特別対談をお願いしたら、半藤さんは、「長岡中学時代、自分は三島億二郎派だけど大勢からいうと継之助派が多かった」、松本さんは、「河

井継之助が大好きだけど、あるきっかけがあつて小林虎三郎の評伝を書こうとしたら、長岡の知り合いの新聞記者に、この町は八割どころか九割が河井継之助派だから虎三郎のことなんか書こうものなら殴られるよ、と言っておどされた」というようなことが書かれていました。米百俵財団の担当者としては少し残念でしたが、改めて継之助の魅力を再認識したことも今は良い思い出です。

平成二十八年には、河井継之助に私淑していたと言われる山本五十六の映画が制作され、半藤さんが監修・

原作ということで私も関わりましたが、稲川さんがシナリオ原稿に付箋をいっぱい付けて、しっかりご覧になっていて、そのことを思い出します。

余談ですが、映画「聯合艦隊司令長官 山本五十六」で五十六を演じる役所広司さんが長岡甚句を歌う場面は何回かありましたが踊る場面は無く残念に思っていたところ「峠 最後のサムライ」では長岡甚句を踊る場面があり、私の中で長岡と継之助と五十六がようやく繋がった瞬間でした。

その後、教育委員会で中田さんに再会すると、私の地元である千手小学校の校長になっておりました。当時、校長先生方に地域の歴史を教育に生かせないかと問いかけていたら、中田さんは地域の歴史を展示する「千手伝承館」を校内に整備し地域学習の場を創っていました。

稲川さんが亡くなり、館長の空席が長くなり心配していましたが、中田館長就任の話聞き安心すると共に、改めて稲川さんと中田さんの不思議なご縁を感じた次第です。

プロフィール

昭和三十年 長岡市生まれ
昭和五十三年 長岡市役所入所
総務部長 商工部長 教育長を歴任
現在 公益財団法人長岡市勤労者福祉サービスセンター 理事長

特別展示 父・河井代右衛門の茶釜

令和5年7月12日(水)

12月18日(月)

ごあいさつ

継之助は父親からどのような影響を受けたのでしょうか。

今回の特別展を通して来館者の皆さんが、自分なりの継之助像を深める機会になればと願っております。

展示物の紹介

● 父・代右衛門の茶釜

(庄兵衛作)

代右衛門は、庭に石灯籠を構え、邸内に簡素な茶室を設けました。庵号を聴松庵といい、あるお茶会では、藩主・家老・藩医、あるお茶会では、長岡町の役人、ある時はお茶の趣のわかる人など、身分を問わず広く招き入れています。

嘉永二年(一八四九)の「小雲しょううん手記茶会献立」に大徳寺釜と記さ

● 大徳寺釜の箱の裏書

これの裏書を記した多少庵中也是、河井家の襖の下張りから発見された嘉永二年の茶会記録を検討し、「翁」(代右衛門)の「登用品であることを確信」したと、その喜びを表しています。多少庵中也是、『温古の葉』を編集した大平与文次の孫で、長岡の宗徧流の伝搬に尽くした大平安民です。

七月十二日(水)より十二月十八日(月)まで、当館は、特別展示「父・河井代右衛門の茶釜」を開催しています。河井継之助の父・代右衛門(小雲)の茶釜を中心に、継之助の人間形成に影響を与えた文化人としての人となりを通して、継之助の人間像の理解を深めることが目的です。

長岡藩には、千利休の孫・宗旦そうたんの門下である山田宗徧やまだ そうへんの宗徧流が伝わっていました。代右衛門は茶道に造詣が深く宗徧流の師範でした。また、良寛とも交流が深かったといわれています。

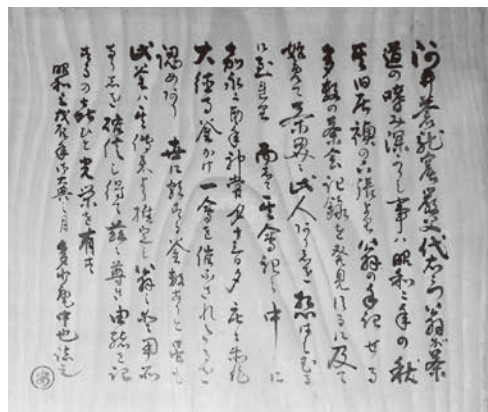
本展では、代右衛門が茶会で使った大徳寺常住釜(関真氏蔵)を展示しています。あわせて、河井継之助が使用したといわれている茶器(慈眼寺蔵)も展示しています。当時の庭には代右衛門がつくらせた石灯籠があり、茶室も設けていました。



特別展示



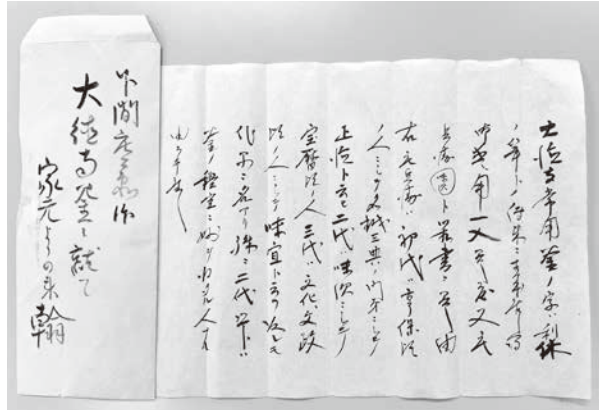
父・代右衛門の茶釜



大徳寺釜の箱の裏書

● 大徳寺釜について 家元からの来翰

大徳寺釜の伝来や製作者庄兵衛について記されています。



家元からの来翰

● 河井継之助使用の茶器

河井家の従僕松蔵まつぞうが継之助からもらったものと伝えられています。長岡城奪還戦で銃弾に倒れた継之助は、この茶器で漢方薬を飲んだといわれます。

茶器の作者は、幕末の尼僧太田垣蓮月れんげつです。茶器には、



河井継之助使用の茶器

「世の中の
ちりもほこりもながれては
きよきに かえる かも川の波」
と歌が彫つてあります。

(中田)



特別展示の説明

かたばみ茶会

十月二十八日(土)と二十九日(日)の両日、当特別展示を記念して「かたばみ茶会」が開催されました。

今回の茶会を「かたばみ茶会」と命名した由来は、「かたばみ」は河井家の家紋であり、継之助の父・代右衛門がお茶会に身分を問わず広く人びとを招いていたためです。親子連れや留学生を含め約二五〇名の方にご参加いただきました。室内に茶室を設けて河井

家ゆかりの庭を眺めながら、おいしいお茶と大和屋さん特製の家紋をあしらえた薯蕷饅頭を楽しんでいただきました。待合の間、参加者の方々が特別展示をはじめ館内展示を通して継之助の生涯に触れる機会となり、大変嬉しく思うところであります。

そして後日、小学六年生の参加者から「僕もまだまだ河井継之助から学ばないといけないところがあると分かりました。貴重な体験ありがとうございました」と手紙が届きました。

ご支援ご協力賜りました古田島泰子先生、長岡市茶道文化協会の皆様、関係各位に厚く御礼申し上げます。



慈眼寺「小千谷談判・控の間」の肖像画は松蔵さん？



ガイドボランティアの会

山田 明

小千谷市に所在する慈眼寺は、真言宗智山派の寺院で、創建は白雉元年（六五〇年）又は貞観二年（八六〇年）とされる古刹です。ご住職の船岡芳英様は六十五世にあたります。

慈眼寺は、私たち友の会会員にとって馴染み深い出来事と云えば、北越戊辰戦争で長岡藩家老の河井継之助と新政府軍軍監の岩村精一郎とのいわゆる「小千谷談判」の場になったことです。交渉が決裂した後、長



控の間の肖像画

岡藩は凄惨極まる壮絶な戦いに足を踏み入れていきました。

また慈眼寺は、中越地震では大きな被害を受けましたが、多くの支援者の助けを得て修復されました。「談判の間」には、河井継之助と岩村精一郎の肖像画が並べて掲げられています。多くの「継之助ファン」が見学に訪れています。

この「談判の間」の下座に「控の間」があります。談判中に長岡藩軍目付の二見虎三郎（会津戦争で負傷・戦死した）が控えていたとされる場所です。この部屋の入口（下座）にひっそりと一枚の肖像画が掲げられています。まるで、「小千谷談判」の行く末を優しい眼差しと柔和な表情で見守っているかのように見えます。

この肖像画の人物はいったい誰なのでしょう？

先般、長岡観光ボランティアガイド会での講演依頼のため、担当者が慈眼寺を訪問しました。その際、ご住職から、「この肖像画は慈眼寺では、長岡藩ゆかりの人だと伝えられています。誰だかわかりません。

そこで、わかりましたら教えていただきたいのです」というお話がありました。

私は、担当者から、この話を聞いて、慈眼寺と長岡藩とを繋ぐ人物のピックアップと肖像画が掲げられている位置などを手がかりに検討を始めました。

まず、慈眼寺と長岡藩に繋がる人物として、河井継之助、二見虎三郎、木川松蔵の三人のことを考えました。最初に、河井継之助です。継之助は、残っている写真と比べると、肖像画と明らかに異なっているため、別人です。

次に、会津戦争で負傷・戦死したとされる二見虎三郎は、遺族から提供されたという写真が現存しており、こちらもこの肖像画とは別人に見えます。

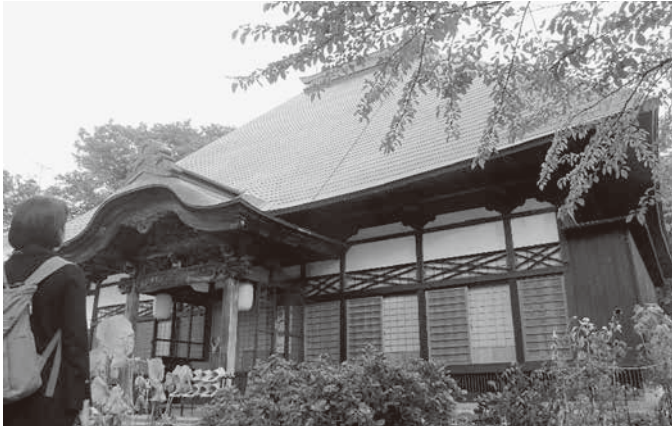
最後に、木川松蔵です。彼は武士の身分でなかったことから、談判の時は、土間又は庭先で控えていたとされています。明治以降は出身の村へ帰られて、ひっそりと静かに生活されていたとのこと。さて、ここで大きなポイントとな



船岡住職に調査結果を説明する筆者▶

るのが、この肖像画の位置です。控の間の入口ということで、極めて控えめな位置にあります。そのため、「談判の間」にある肖像画（河井継之助や岩村精一郎）よりは身分の低い人物であろうと想像できました。そこで、私はこの肖像画の人物は、「木川松蔵」ではないかと直感しました（この時は心が震える思いでした）。

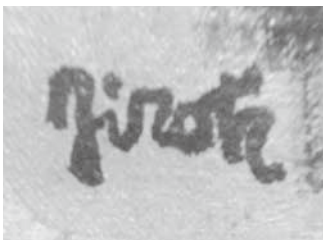
松蔵の容姿について、例えば佐々木セツ『河井継之助の妻』（新人物往来社）には、次のように記されています。「松蔵は身の丈六尺近くあ



慈眼寺本堂の外観



慈眼寺山門の外観



肖像画の謎を解くポイントとなるサイン



ひっそりと掲げられている肖像画



慈眼寺の控の間(奥が、談判の間)
この入口の柱の上に肖像画がある



参加者に肖像画の解説をされる船岡住職

り、鼻高く眉秀で、下賤の家の生まれだとは思われぬなかなかの好男子であった。まさに、この肖像画を見て書かれたのではないかと思うほど、びつたりの表現です。他の書物にも松蔵の容姿は、ほぼ一様に美男子であったとあります。

これらことから、肖像画の掲げられている場所、多くの歴史関係書に記載されている木川松蔵の容姿などを総合的に評価した結果、この肖像画は木川松蔵ではないかと思うに至りました。

その上で、これらの検討内容を取りまとめて、慈眼寺の船岡住職様を訪ねてご報告させていただきました。ところで、この後、更に新たな知見が得られましたので、追加記載させていただきます。

河井継之助研究の草分けともいえる今泉鐸次郎『河井継之助傳』(昭和六年発行)の「一ページ目の「自叙」の欄に、なんと「木川三九郎(松蔵)」の名前がありました。

つまり、明治に入ってから松蔵の名前は、「木川三九郎」になっていたことが判明しました(多くの書籍では、ほぼ木川松蔵としか記載されていません)。慈眼寺の肖像画に関する記録の中に「木川三九郎」の名前があれば、この肖像画が松蔵であることの重要な根拠となると考えられます。

この肖像画がいつ・誰によって描かれたのか、肖像画を作成された方の想い、ここに肖像画を掲げられた方の想いはいかがだったのか、興味は尽きません。

このたび、この肖像画の謎解きに関係させていただき私自身心より感謝しています。新しい発見は心をときめかせます。

私の考察は以上ですが、これらのことが肖像画の謎を更に解明する一助となれば幸いです。

なお、慈眼寺の本堂及び「談判の間」の見学は、事前予約が必要です(拝観料三〇〇円)。

館長が行く

只見町墓前祭・本光寺弔霊祭

「会津の義を子どもに伝える」

八月十六日、福島県只見町の医王寺において河井継之助の墓前祭が行われた。私は初めて参列した。追悼の言葉のあと、小千谷慈眼寺のご住職様による読経が行われ、参列者が焼香した。継之助はわずか十二日間の逗留であったが、只見の皆様の温かい心に触れることができた。墓の脇に「河井継之助は明治元年八月十六日塩沢村矢沢宗益宅で亡くなった。遺体は茶毘に附され若松城外建福寺に運ばれ明治二年九月更に長岡城下栄涼寺に改葬された。残った遺骨は村人たちによって手厚くここに葬られた。後日、『幕府侍医松本良順長岡藩医阿部宗達の両名によって』墓石が築かれた」と案内があった。

私が、はじめて只見町の河井継之助記念館を訪れたのは平成十五年である。阪之上小学校の修学旅行のコースにどうしても河井継之助記念館を入れたかった。開通を待つてバスで六十里を越えた。記念館を見学し継之助のお墓参りをした後、昼食の時間となった。用意されたテントのもと、子どもたちにと土地のもの

をふるまっていた。初めての訪問で緊張したが、今でも当時の只見の皆様の温かいおもてなしの心がよみがえってくる。おかげさまで河井継之助記念館、医王寺訪問は今日も続いている。

九月九日は飯寺本光寺における長岡藩士殉節弔霊祭に参加した。山本

帯刀の部隊は會津で戦った。

そして飯寺で奮戦むなしく敗れ、多くは戦死し山本は斬首となる。ときに明治元年（一八六八）九月九日慶応から明治と改元されたその日、長岡藩の最大の悲劇は会津の飯寺の地でおきた。その節を曲げることなく、義に生きた長岡藩士を悼んで、毎年、飯寺の人たちによって弔霊祭が営まれている。そのご芳情に深甚なる敬意を表したい。

実は本光寺は長岡市内の小学校の修学旅行のコースである。私も引率で何度か訪れたが、弔霊祭は初めて参加した。祭文に続きご住職の読経、追



長岡藩士殉節弔霊祭



只見町墓前祭



河井継之助記念館の見学の様子

悼のことば、電文披露、献花、焼香、奉納吟詠と続く。最後に阪之上小学校の児童が書いた御札の手紙が紹介された。事前学習と現地訪問から会津の皆様への感謝の気持ちと平和への願いが綴られていた。その後長岡藩士四十四名の眠る墓をお参りした。

当館には市内外の小・中・特別支

援学校の児童・生徒が総合的な学習の時間及び夏休みの自由研究で来館している。また、先生方やガイドボランティアの研修も行っている。長岡の次代をなう子ども達に河井継之助の生き方を通して、一五六年という長い時を経て墓前祭や弔霊祭が続いている歴史的背景と、長岡に対する只見、会津の皆様を伝える学びの場としての役割を充実発展していきたい。

（中田）

最年少を更新!!

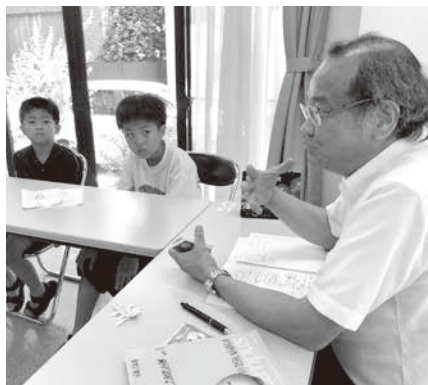
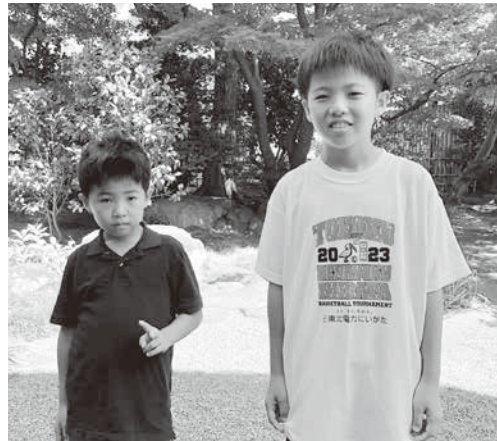
会員インタビュー

友の会会員は現在五七〇人。昨年十月に当時小学一年生と小学四年生の兄弟が入会してくれた。会員の中では断トツの最年少！なぜ入会してくれたのか、河井の魅力を知った。

正樹さんが描いた河井継之助



右) 三条 正樹さん(10歳)
今、バスケットボールに熱中
左) 三条 正登さん(7歳)
クワガタ採集と読書が好き



中田館長は正樹さんが通う小学校の校長先生だった

中田仁司館長(以下、館長) / 初めて記念館に来たきっかけは。三条正樹さん(以下、正樹) / 八歳の時です。正登は保育園の年中さんでした。その時、先人カードを集めていたので、中田館長に見てもらいたくて。館長 / 秋に開催される「米百俵まつり」の企画で、長岡の先人が描かれた二十四枚のカードを集めるため大手通り周辺商店街の店舗を一つ一つ巡ったそうですね。正樹 / 河井継之助と小林虎三郎のカードはレアでなかなか見つけれなかったけど、全部集めることができて、特別なカードももらいました。

館長 / 継之助のどんなところに惹かれましたか。正樹 / 外国の文化や技術を取り入れて、暮らしていたところ。戊辰戦争の時にガトリング砲という最新の武器を外国から買い付けたところもかっこいいと思いました。三条正登さん(以下、正登) / お侍さんなのにブーツを履いていたり、望遠鏡を使っていることにびっくりしました。館長 / なぜ友の会に入ってくれたのですか。正登 / 「越後長岡かるた」を保育園の先生が読んでくれて、継之助にも興味を持ちました。正樹 / 一五八、〇〇〇人の来館者記念でもらった会報「峠」をファイルにまとめて読んでいます。友の会の会員になると、峠の最新号が読めるので楽しみにしています。また、通っている小学校や自宅のお寺と河井継之助との関係をもっと知りたいです。(荒木)



会報「峠」や先人カード、イラストもファイリング

遠方からの客人

まればと
インタビュー 29

群馬県よりお越しの青野聖大さん



令和5年3月29日

●歴史を好きになったきっかけは

小学五年生のときにギリシャ銀行が破綻して、世界銀行がお金を貸し付けて再生したことを知りました。その後銀行が経済を再生する役割について先生と話す機会があり、日本でも江戸時代は藩が国としてのほたらきをしていたが経済が成り立たずその後銀行により再生していったと聞き、歴史に興味を持ちました。

●河井継之助の印象は

いかがでしたか

いま、山本五十六記念館に寄った帰りなのですが、河井さんがしっかり自分の考えを持って意見を言っているところ、また本を自分で書き写し考えの根拠にしているところなど山本五十六と重なるところが多く驚きました。

学んだことを生活に活かしていきたいとおっしゃっていた青野さん、是非長岡の銀行についても調べにいらして下さい。

総会・講演会報告

四月十五日、令和五年度友の会総会・講演会が長岡グランドホテルで開催されました。会には市内外から一〇〇人を超える会員の出席があり盛況に終えることができました。

講演は、講師に友の会の会員でもある大竹晴義氏をお迎えしました。大竹さんは、八十里越の越後側の三条市下田地区で、地域の活

性を図るNPO法人「しただの里」を立ち上げ、八十里越を整備する「八十里倶楽部」を運営されています。

演題は「八十里越を歩く 過去・現在・そして未来を」です。

八十里越は、越後と会津を結ぶ古くからある街道で、八里でありながら、険しさゆえに一里が十里に感じられるほどから、八十里越と名付けられたそうです。

継之助が通った道のほかに、継之助以前の道、その後明治時代

の道を、スライドを使い、わかりやすく説明いただきました。

八十里越は、交通手段が大正時代に鉄道網が整備されたことで使われなくなり、荒廃してきました。大竹さんはその八十里越を整備する組織を立ち上げ、調査・整備されています。近い将来、国道二八九号線が開通すると、八十里越も身近になるそうです。大竹さん、楽しい講演をありがとうございました。

(今井)

記念館近況報告

▼友の会のホームページがリニューアルしました。記念館のホームページの「友の会」のバナーからご覧いただけます。

▼今年、通常開催された長岡大花火大会では、八月二日・三日の両日、大勢のお客様に来館いただきました。ガイドボランティアの皆さん、中田館長がフル回転で解説してくださいました。

▼河井継之助終焉の地只見町にて、命日八月十六日に墓前祭がしめやかに執り行われました。友の会会長はじめ十三名で参列させていただきました。

▼来館されたお客様でアンケートにお答えいただいた方に、職員手作りの葉をプレゼントしています。



河井継之助記念館 友の会について

会員の交流や情報交換を通して継之助について学び親しみ、記念館を応援する会です。

●会員数/正会員 425名 協賛 43名 小・中学生1名 顧問 2名
合計 471名 (令和5年度会費納付済)

●特典/①入会時に徽章贈呈 ②友の会会報「峠」配布
③交流研修旅行の案内・参加 ④催事案内・参加

会員募集中

●入会手続き/(入会金千円が必要となります)

- ①申込書に入会金と会費を添えて、事務局へ持参。
- ②申込書を事務局へ送り(郵送、FAX)、入会金と会費は銀行振込または郵便振込で納入。(手数料は本人負担となります)

●会費/※会計年度は3月31日まで

- ・入会金/千円(新規入会時のみ)
- ・年会費/①正会員/(ア)小中学生:500円 (イ)高校生以上:2千円
②協賛会員/一〇五千円(法人の他、個人でも可)

●口座について

- ・加入者名/河井継之助記念館友の会
- ・口座番号/郵便局 00560-9-96432
長岡信用金庫本店営業部 普1032829
第四北越銀行長岡本店営業部 普1764663
大光銀行本店営業部 普3011256

※郵便局の場合は払込用紙が事務局にありますのでご利用ください。

●友の会事務局/河井継之助記念館

友の会ホームページアドレス

<https://tomonokai.tsuginosuke.net/>



編集後記

●巻頭執筆やガイドボランティア山田さんの発見など、今号も皆さまのご協力のおかげで無事入稿できそうです。インタビューさせて頂いた小学五年生の新入会員さんに「会報がもっと面白くなるには」と伺ったところ、「マンガを入れて読みやすくした方がいい」とアドバイス。ありがとうございます。編集委員会で検討します。会報「峠」の発行目的は、①会員同士の交流の場、②継之助を深く知り、ファンを増やすこと。読者の皆さま、感想・アイデアをぜひお寄せください。

(荒木)

新入会員ご紹介

(令和5年4月1日から8月15日まで)

棚橋 智仁	新潟県長岡市	星野 芳昭	東京都港区
永吉 仁志	新潟県長岡市	大宮 みゆき	福島県南会津郡
鈴木 厚子	神奈川県相模原市	鈴木 孝至	東京都世田谷区
本間 陽士	新潟県新潟市	牧 里美	大阪府東大阪市
酒井 澄江	大阪府高槻市	五十嵐 正行	東京都台東区

以上10名(敬称略)